
人斬りは異世界で何を斬る

安口優司

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

人斬りは異世界で何を斬る

【Nコード】

N6254Z

【作者名】

安口優司

【あらすじ】

神速の剣の流派の神宮俊牙流の継承者「雨宮蒼司」はある思いを胸に人斬りをしていた。ある日襲撃にあい死を自覚した時、気がつけば欧米でもなく欧州でもなく異世界にとばされていた！さてさて幕末の人斬りは何を思い異世界で何を斬るのだろうか。

プロローグ（前書き）

はじめまして安口優司です。

少し変わった異世界トリップものですが、読んでいただけると嬉しいです。誤字・脱字の報告、感想等もいただけると幸いです。

自分の未熟さで見苦しい部分を見せるかもしれませんがどうかよろしく願います。

プロローグ

明治元年日本

五人の幕府側武士の前に一人の若者が現れる。

「何者だ……」

「天誅！」

幕末　人々は様々な野望・理想・思いを胸に剣を交えて戦った。

剣と剣が打ち合う音が夜の京都の町に響き渡る。

今宵はどの思いがせり勝ち生き延びるのか。

キンッ、ガッ、キンキンッ、キンッ、ザシュッ！ウギヤアア！、キンッキンッ、ザシュ……

打ち合う音、人体を斬る音、うめき声、そして崩れ去る音

バタバタと一人、二人と倒れてゆく。

強き者は生き、弱き者は思いを打ち碎かれ敗れ死んでゆく。

それが『幕末』！

そして今宵の勝者の若者は己が降らした、血の雨をかぶり剣を鞘におさめる。

宿舎につこうと5体の死体に背を向けると、目の前には着物をきた女がいた。

女は血を染めた白いシヨールを羽おいながら、そつと呟いた。

「あなたは誰ですか？」

「ただの人斬りさ」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6254z/>

人斬りは異世界で何を斬る

2011年12月20日22時46分発行